

project E (Education: 教育)

建築を通して出来る事

中東岡には現在一つの公立幼稚園と一つの公立保育園と一つの私立幼稚園「中東岡幼稚園」がある。
少子高齢化時代。産んで出来る事は決して国家政策でもある。
時代の教育を受けながら中東岡幼稚園の改築計画が出された。もともと、敬和学園・同志社大学系列のキリスト教主義の幼稚園でもある。園児教育の基本にブルーベールの「知育・体育・音楽」の三本柱を掲げている。家庭生活から初めての社会生活の舞台が幼稚園である。楽しさと厳しさが同時に訓練されることになる。
しかし、決して幼稚園という呼ばれ方には抵抗があり、むしろ正式訳として「Kindergarten」(ドイツ語で子どもの園)の方が適切であった。
よって住まい方は、出来るだけ家庭生活の延長にあること。
構造は、自然の音の中で生活するような造りもある木構造。
物語性のある幼稚園は、コンセプトアルキテクチャーを目指す。
そのベースには教育問題を真正面から問い直そうとするものでもあった。

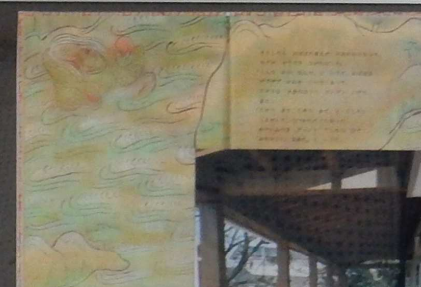
優=人+愛い

バリアフリーは建築には確かな要素である。しかし「バリア」もまた同じく大切な要素であるとする。子どもはバリアを経験することで成長する。バリアのない、言わば守られた環境だけではいけないと考える。やさしい人は人の痛みがわかる人である。
バリアを知っている人である。故にこの幼稚園はバリアフリーではない。バリアをあえてつくってある。
時にはバリアはそのままだ教育になり得るのである。

母語「さんまいのおふだ」をヒントに
(神様からもらった山、川、火、の3枚のおふだを使って、山麓から運けるおはなし)

山、火、川 というバリアを
↓
段差、太黒、雨 に置き換え、

それぞれの奥にこころ、思いとこころを身体で感じ、それを精神的に受け取り、それを心で受けとる。バリアもある。時にはそのバリアのために大きくもならない。また、それ以上にたくさんのおふだの遊び、はしゃぎまわらう。そして大きくなった子どもの楽しかった幼稚園時代の思い出の一ページに登場する園舎でありますように。



建築主	中東岡市教育委員会
建築士	高田建築設計事務所
建築年	2001年
建築面積	4,661.14㎡
延床面積	5,777.66㎡
1階床面積	4,333.34㎡
2階床面積	1,444.32㎡
構造	RC造
基礎	RC造



3枚のおふだの幼稚園

天気のいい日は
とても気持ちいい太陽の光がササッと。

トップライトで
太陽の光がササッと。

当園の大黒柱。

休けいはタタミの上で。

玄関から入ってくると
いきなりステージ。
これが3枚のおふだの「山」。

ホールや玄関ホールと
つながりをもたせた勾配天井。

ビー玉が
埋め込まれた玄関。

まっかな柱が園児をお出迎え。

階段の下は子供のくぐれが。

夜にはとってもきれいな光の丘。

母子コーナー。

遊園の時は
このまっかな非常階段で。

2Fでもお茶を出すように
ミニキッチン。

上を見上げると
ガラス屋根。
これが3枚のおふだの「火」。

天井が高く、
木が暖かくなっている。
まるで森の中に建つ
教会堂のような研修室。

角材を積み上げて
つくった手すり。
表情がとてもやさしい。

大黒柱の円柱とそこから放射状にのびる梁

